

令和5年度地区懇談会（青葉地区） 議事録（概要）

令和5年10月16日（月）18:00～19:50

市民活動センター 出席者18名

5. 市役所本庁舎の建設及び中央地区まちづくり協議会の取り組みについて

質問：青葉地区連合町内会長

- ・ 新庁舎にいろいろな機能が設けられるとのことであり、それらの運用がされてから跡地の活用について重複がないように考えるべきではないか。
- ・ また、中央地区と題しているが、市民全体の問題として捉えるべきである。商店街の方がたが集まって議論されているが、もっと市全体のものとして考えるべき。
- ・ 「観光と人と人」という言葉が出てきたが、観光と市民の間にギャップがあるのではないかと考える。観光と市民とのギャップを埋めるためにはどうすれば良いか考えていただきたい。

回答：総務部次長

- ・ まず、新庁舎と跡地に設ける施設の機能重複について、そういったことが無いように考えるべきという意見はそのとおり。まちづくり協議会の方にも人が集まる広場の整備であったり、新庁舎の機能について説明しながら、跡地利用について考えていただいている。
- ・ 中央地区のまちづくりについては、これは幌別駅前周辺のことだけではなく、登別市の中心でもあると思うため、ここの活性化というのは登別市にとって大切なテーマと認識。そのため、庁舎の設計建設に合わせて同時に話し合いを進めている。
- ・ どのような形で跡地を利用することで、にぎわい創出につながるのかということとはもとより、現時点においても中央地区を活性化させるにはどうしたらよいかということもテーマになると考える。どういったにぎわいを創出できるかは、もう少し検討させていただきたい。
- ・ 観光と市民の皆さんの意識のギャップについて、今までも検討は行われてきたが、うまく進んでいないのが現状。しかし、登別温泉にはたくさんの観光客が訪れており、にぎわい創出のためには、その人たちに市内のさまざまなところに足を運んでいただくというのが重要になると考えている。
- ・ その一つのきっかけとして、新庁舎の整備や広場の整備に加え、土・日曜日も庁舎を開放し、観光客の方にも足を運んでいただける施設になればという考えもある。皆さんのご意見も踏まえ、今度も検討をしていきたい。

質問：さくら団地自治会長

- ・ 登別市の中心はどこかと言われれば、幌別駅周辺や現庁舎のある中央地区あたりと思われ、そこを活性化したいという話は以前からあった。だが、現状は活性化に至ってい

ない。そういった意味では跡地活用の話し合いは活性化の良い機会と考える。

- ・ また、跡地活用の話と合わせて、都市間高速バスについても話をしていただきたい。都市間高速バスの停留所によって観光客の人の流れが変わってくる。今の停留所では、観光客が中央地区を訪れるにはキャリーバッグをもって幌別駅を越えなければならない状況。跡地や新庁舎に都市間高速バスが停まりやすい、旅行客が利用しやすいような環境整備をする必要があるのではないかと思う。
- ・ 室蘭市では道南バスを利用した地域活性化などが行われている。登別市でも道南バスと協力し、都市間高速バスくらいは中央地区に入ってくるようにしてもらえたらと思う。

回答：市民生活部長

- ・ 都市間高速バスの関係について、中央町を通るルートから幌別町を通るルートに変更となった件については安全性と定時運行の関係で移ったと道南バスから聞いている。
- ・ 安全性については、冬期のときめき橋の傾斜について心配があるため避けるルートを選んだとのこと。また、踏切についても、駅に近い踏切の通過には時間が掛かることがある。以上のことから、現在の幌別町を通るルートに変更になったという経緯がある。
- ・ しかし、このたびは中央地区のまちづくりという視点を含んだ考え方であるため、このような意見があったということに加え、総務部で協議しているまちづくりでそのような要素を付加して検討できるかも含め、今回のお話を受け止めさせていただきたい。

意見：青葉地区連合町内会事務局長

- ・ 新庁舎の今後の維持管理について、どの程度の費用を見込んでいるのか。広場等の緑化についての維持管理にも費用は掛かると思われる。それを加味して実施設計に反映していただきたい。
- ・ また、中央地区の関係についてだが、当地区連会長が話したとおりの「観光」と言われても登別温泉地区から遠い市民には乖離がある。その差をどう縮めていくかという課題がある。
- ・ なお、まちづくりのワーキンググループにサポートとして市内に事業所のある企業が有識者として起用されるなど、さまざまな方が協議会に参加されている。参加者ごとの考えもあり、どうまとめていくかが重要になってくると思う。どういった経緯でその企業が有識者として起用されたのか分からないが、経験を反映させてしっかりと取りまとめしていただきたい。

6. 個別避難計画の策定に向けた取り組みについて

質問：西川上町内会副会長

- ・ 個別避難計画は町内会に任せっきりののか。災害が発生した際に、町内会のものが個別避難計画の要支援者に付きっきりで避難することになるのか。

回答：総務部次長

- ・ 個別避難計画について、町内会に任せっきりになるということはない。実際に避難に支援が必要な方の情報を一番持っているのは町内会や近所の方だと思われるため、計画策定にはその情報が必要である。それによって必ず町内会の方が、要支援者の方を助けなければならないというものではない。
- ・ ただし、実際に津波などの災害が発生した場合は、市役所から職員が行って助けることが難しいため、地域の方がたでできる限り協力し合って避難していただきたい。

質問：西川上町内会副会長

- ・ 町内会は高齢者が多く、自力で避難できない方を支援しているうちに一緒に被災してしまうのではないかと。小地域ネットワークのきずな台帳にもあるように、支援が必要な方がいるのは分かるが、町内会で支援する方法など、ある程度示していただきたい。

回答：総務部次長

- ・ 細かな事例に関しては個別に検討する必要があるかと思う。まずは防災担当と話をしただき、説明を聞いていただきたい。その中で町内会がどのようなことをできるのか、話し合いながらこの策定に向けて進めていきたい。

7. チャレンジ！！ゼロカーボンについて

質問：青葉地区連合町内会長

- ・ 昨年、プラスチックごみの分別についての話があったが、現在はどのような進捗になっているか。
- ・ また、議員が紙おむつのリサイクルについて議会で質問していたが、紙おむつの処理について市は今後どう考えているのか。コスト的に大規模な都市でなければペイされないという話も聞いたことがあるが、登別市、室蘭市、伊達市を合わせれば人口は10万人を超える。地域連合としてCO2削減に取り組むことも視野に入れて知恵を出していただきたい。

回答：市民生活部環境対策室長

- ・ プラスチックごみの分別については、令和4年度ごみの分別の中で話をさせていただいたものである。まずすぐに取りかかるところということで、生ごみの堆肥化容器の話や、紙ごみ分別の強化に取り組んでいる。プラスチックごみについては手法がたくさんあり、まだどの手法でいくかの判断に至っていない。なるべく早い時期にプラスチックごみについても分別を進めていきたいと考えている。もうしばらくお待ちいただきたい。
- ・ 紙おむつのリサイクルについては、分別でいえば紙類ごみと分類されている。中身に

は高分子凝集剤というプラスチックを多く含んでいるが、登別市でのカテゴリではその他紙ごみとなっている。

- ・ 紙おむつの排出も今後増えていくという話もあり、先の議会でも説明させていただいたが、本件は今後の課題であるという認識。広域で処理した方がメリットが大きいという話もあるので、情報を注視している。

意見：青葉地区連合町内会長

- ・ 紙おむつは施設や病院からも多く排出されるため、各家庭より、そういった施設から検討を始めていただきたい。

意見：青葉地区連合町内会事務局長

- ・ ゼロカーボンは当然進める必要があると思っているが、もっと推進すべき点がある。町内会で資源回収を実施しているが、93の全町内会で行われているわけではない。
- ・ また、町内会未加入の世帯が3割近くある。さらに、小規模な町内会では資源回収などの活動が難しいところもある。そこも突き詰めていけばもっと資源回収を行える余地はあると思われる。

回答：市民生活部環境対策室長

- ・ 町内会での集団回収が行われていないところもある。理由としては、町内会をあげて行う仕組みになっていないところや、個別に回ってくる資源回収で間に合っている町内会などもあり、今すぐに町内会での集団回収を開始する意向のないところもある。
- ・ 一方で紙類のごみはまだまだあるため、どうやって回収するか検討した結果、令和5年10月からクリンクルセンターで回収用の物置を設置した。町内会での集団回収は継続していただきたいが、それができない方がたを対象と考えて実施している。

質問：西川上町内会長

- ・ CO2削減を個人で行う場合、非常に手間と費用が掛かる。その中で住宅関連と生活関連で個人向けの補助制度はあるが、生活関連として現在ある生ごみ処理機の設置補助などは残りが少ないと聞いているが、全世帯に行き渡るなら予算をつけて実施した方が良く考える。
- ・ 住宅関連については、省エネ給湯器など非常に設置・交換に費用が掛かる。去年は事業者向けにしか補助がなかったが、今年度は個人向けの助成が出るようになったのか確認したい。

回答：市民生活部環境対策室長

- ・ 生ごみ処理機は今年補助の枠が残りわずかであり、予算枠は電動式が10基、コンポスト型が20基であった。電動型の補助は完了しており、コンポストがまだ少々残りがあある。この事業は今年開始したものであり、補助対象件数が少なかったが、来年度以降

も継続していきたい。

- ・ 家庭向けの補助としては、今年7月からZEH住宅や窓の改修、高効率給湯器の補助を始めたところである。

意見：西川上町内会長

- ・ 補助金を活用し、少ない負担で省エネ機器を市民が導入できるような事業はやっていくべきだと思う。引き続き、国の補助制度などを見極め、状況によっては市の財源なども入れ、しっかりと市民にゼロカーボンに向けた取り組みを行っていただくという考えを持っていただきたい。

8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：(1) 今後の公共交通の有り方について

質問：青葉地区連合町内会長

- ・ 公共交通の問題は社会問題となってきた。そこで、常盤町で行われた実証実験の経過、結果を知りたい。
- ・ 個人的には無料でサービス提供はやめた方がいいという考えである。恩恵を受けるのであれば有料であるべきである。交通の問題では運転手が不足しているなど、さまざまな問題がある。その点を踏まえて説明をお願いしたい。

回答：市民生活部次長

- ・ 今後の公共交通の在り方について説明する。
- ・ 資料の①について、公共交通が少ない常盤町での実証実験についてということだが、常盤町及び柏木町は、登別市地域公共交通計画において公共交通空白地域と位置付けており、何らかの支援が必要な地域となっている。
- ・ 計画策定時のアンケート調査では、現在ではなく将来的にコミュニティバスなどのきめ細やかな支援が必要と回答した方が多い状況であった。実際に交通を運行させ利用ニーズを把握するため、市バスによる実証実験を実施した。
- ・ 実証実験の状況は、幌別駅前から常盤町、幌別浄水場、柏木町、富士会館、富士郵便局前を經由して幌別駅前に戻る半時計回りの1周コースで、乗降場所は300～500m間隔で設定し、目印となる「のぼり旗」を設置した。
- ・ 便数は午前4便、午後3便とし、期間は7月11日から8月29日までの毎週平日火曜日と金曜日に運行した。
- ・ 実証実験の傾向として、利用者数が多い便は、10時頃に幌別駅前に着く第2便であった。市バスの定員は20名で、第2便は市バスに利用者が乗り切れず、数回、伴走車両に乗車してもらった。
- ・ 利用者のほとんどは高齢者で、杖をついている方もいたが、職員の乗降支援を必要とせず自身で乗降車していた。シルバーカーを車内に持ち込む利用者がほぼいなかった。
- ・ 多くの利用者が降車した場所はアーニス前で、買い物目的が多かったように感じてい

る。夏休み期間中ということもあったが、少数の学生が利用していた。

- ・ ②について、他市町村では自動運転やデマンドAI、乗合タクシーなど、さまざまな実証実験が行われており、それぞれの地域特性があるため、一概にどれが良いとは言えないが、傾向として実証実験で利用者負担とし、本格運行で有料とした場合、利用者数が見込み以上に減るとの傾向がある。
- ・ いずれにしても、今後、常盤町・柏木町で実施した実証実験の乗降データやアンケートなどの分析を進め、既存の交通網につなげる交通を基本に、交通事業者の営業エリアとの競合を回避するよう配慮するほか、地域の声をお聞きし、登別市地域公共交通活性化協議会で他の方式の導入も含めて検討していく。
- ・ ③について、道南バスのおでかけパス等については過去に「高齢者の社会参加や健康推進」を目的に助成制度を実施していたが、利用率が2.5%に留まっていたことから廃止している。
- ・ また、ライドシェアについては、現行法令では、有償での運行ができない状況となっている。
- ・ ②と重複するが、交通機関を利用する場合の補助金制度導入の可否については、実証実験の結果を踏まえ、必要な交通を検討する際に含めて検討していく。

8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：(2) 桜木住宅の跡地の活用について

質問：青葉地区連合町内会長

- ・ 該当の場所は近隣にコミュニティセンター桜木会館と青葉児童クラブがある。現在桜木住宅には住民がいないため、コミュニティセンターに至る通路などの除雪は町内会で行っており、また周辺の青葉児童クラブ前の市道は児童の送迎車が路上駐車となっており、コープの配送トラックなどが通る関係から安全上からも対策が必要と思われる。
- ・ 桜木住宅の解体や今後の活用について計画を知りたい。

回答：保健福祉部次長

- ・ 児童の送迎時等における路上駐車については、駐停車中の車両の間から、児童クラブを利用する児童が飛び出してしまうことが懸念されるなど、ご意見があったとおり、安全上の対策が必要と考えている。
- ・ 児童の送迎等における車両の駐停車場所については、旧桜木町職員住宅敷地内の空きスペースや、旧桜木町職員住宅と青葉児童クラブの間の通路を利用させていただくなど、児童クラブを利用する児童や近隣住民の安全確保のため、路上駐車を行うことのないよう、青葉児童クラブを通じて保護者に周知していく。

回答：総務部次長

- ・ 旧桜木町職員住宅については解体せず、建物と土地をまとめて、今後売却に向けた手続きを行う予定としている。しかし、建物の老朽化が進んでいるため、場合によっては

市による解体を条件に売却を進めるなどの対応も検討する。

- ・ いずれにせよ、桜木会館と青葉児童クラブの通路の確保を考慮する必要があるため、施設所管グループと協議を行いながら進めている。

質問：さくら団地自治会長

- ・ 跡地活用について、あの土地は道路に面しており、かなりスペースが限られている。売却して他の建物が建てられるとまた別の問題が発生する可能性がある。更地にして市で管理してもらいたいというのが本音である。
- ・ そうすれば児童クラブの駐車場も確保できる。現在の状況では事故が起きてもおかしくないので、早めに対応していただきたい。
- ・ また、地区連会長の話にもあったように、コープさっぽろのトラックが出入りしているため、青葉児童クラブを利用している保護者への周知だけでは安全確保は難しいと思われる。

意見：青葉地区連合町内会事務局長

- ・ あの場所には花壇があるが、手が回っていない状況である。また、職員住宅の物置の間にも2台ほど車をおけるスペースがある。よって、花壇を撤去するなどすれば、車を安全に駐車できるのではないかと。

回答：総務部次長

- ・ いただいた意見を参考にしながら検討していきたい。

8. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項

(3) 防災避難訓練結果を踏まえた、課題・要望について

質問：青葉地区連合町内会長

- ・ 先に行われた登別市連合町内会主催の全市一斉防災避難訓練を行った際に、避難場所での支援物資の状況や、市からの支援体制がどうなっているのか疑問が生じた。
 - ①避難場所における、支援物資（品物、数量）の保管状況を知りたい。
 - ②避難所における管理体制（公助：職員派遣）、共助）と役割分担。

回答：総務部次長

- ・ ① 避難場所での備蓄品については、「登別市備蓄整備方針」に基づき、16カ所に食料や防災資機材などを分散備蓄しており、青葉地区としては青葉小学校に備蓄をしている状況。
- ・ 青葉小学校の備蓄内容については、食料が2,600食、毛布が130枚、床敷きマットが55枚、その他の資機材についてはやかんやカセットコンロ、懐中電灯、ランタン、ラジオ、投光器、拡声器、ポリタンク、ブルーシート、ガス発電機、燃料としては、カセッ

トガス、灯油、ガスを保管している。

- ・ ただし、これらで備えが十分というものではないため、基本的には最低限でも個人が必要な防災の備えを行ってほしい。
- ・ ② 避難所の開設については、「登別市避難所運営マニュアル」に基づき、役割分担を決めており、避難所の開設については市職員が5名程度で対応していく。
- ・ 対応までの時間としては、災害発生から1時間以内、または災害が発生すると見込まれる時間から1時間以内を目安に避難所開設の準備を行うこととしている。
- ・ また、避難所の運営に関しては、市職員と地域住民等がお互いをサポートし合いながら対応するものとし、判断に迷った場合は、市の災害対策本部に連絡して対応していくこととしている。
- ・ 避難所開設が長期間に渡る場合は、避難者、地域住民等で「避難所運営委員会」を設置して避難所運営を行うこととし、市職員はその支援及び本部との連絡・調整を行うこととしている。

質問：西川上町内会副会長

- ・ 青葉小学校に防災備蓄はあるということであったが、発電機は設置されていないと思うが。

回答：総務部次長

- ・ ガス発電機が1台設置されている。

質問：西川上町内会副会長

- ・ 現在、桜木会館に発電機等の災害の備えをしているが、5mを超える津波が来た場合は浸水して使えなくなってしまう。可能であれば青葉小学校の建物内や敷地内、あるいは許可をもらって小屋を設置するなどして、発電機等の町内会の備蓄を設置したいと考える。
- ・ 教育委員会に防災担当から話をしたが、所管の関係から話が進んでいない。しかし、災害への備えとして検討していただきたい。資材を収納する小屋の想定は小売店にあるような一坪程度のもので、管理は町内会で行うので許可の検討をしていただきたい。

回答：総務部次長

- ・ 高台の備蓄は青葉地区に限らず全市的に求められていると認識。現状、青葉小学校に備蓄をたくさん格納しておける余裕はなく、説明のとおり内容にとどまっているが、冬期の津波なども想定されるため防寒用具などを充実させたいと考えている。

質問：青葉地区連合町内会長

- ・ 青葉小学校は無理でも、そばにある児童館には備蓄が可能ではないのか。

回答：総務部次長

- ・ 今後協議したい。

その他：町内会で実施している募金活動について

質問：西川上町内会長

- ・ 募金について、町内会では年4回ほど募金活動を行い各戸お願いして回っているが、コロナウイルス感染症の影響で各戸回るのが難しくなり、西川上町内会では会費から納入するように変わった。
- ・ 西川上町内会は530世帯ほどあるが、町内会費から10万円を募金として納入している。以前は各戸まわり、16万円ほど集まっていたが、コロナウイルス感染症対応が明けて、各戸募金に戻して欲しいという要望も聞いている。しかし、西川上町内会では各戸募金に戻さず、会費納入を維持したいと考えている。
- ・ 各戸回り募金を回収するのは負担が大きい。町内会では担い手不足という問題を抱えており、班長や役員のさまざまな負担を減らしていきたいという考えからである。これらについて、市はどのような考えを持っているか聞きたい。

回答：保健福祉部長

- ・ 今年、コロナウイルス感染症が5類相当に引き下げになり、募金は町内会費からの納入、各戸訪問による納付、または納付書納付ということでそれぞれの各町内会がどのように実施したいかということのを考慮し、3種類の方法から選んで実施していただいている。今後もそのような方法で各町内会で検討いただければと思う。

意見：青葉地区連合町内会事務局長

- ・ 町内会費から募金を捻出することに対して、過去には裁判になっているケースもあるのでしっかり検討すべき。

意見：青葉地区連合町内会長

- ・ 善意による寄付であるため、町内会費から一律で出すことに対して反対意見を持っている方もいる。緑町団地町内会では回覧で周知し、班長の郵便受けに募金を入れた封筒を入れるようお願いしている。これらの話も含めて町内会で考えていただければと思う。